

中央大学のキャンパスを体感するイベントを今年も開催。学生一人ひとりの夢の実現に向けた充実したキャリア・就職支援プログラム。学生の未来を支援する新たな取り組み、そして就職活動時期が例年と異なった2017年卒の就職活動の実態をお届けします。

盛況!! 受験生来訪型イベント <入学センター>

入学センターでは、夏季のオープンキャンパスをはじめ、各月3回(多摩2回、後楽園1回)のキャンパス見学会、高校単位での施設見学会を随時実施しています。

2016年度は、夏季オープンキャンパスにおいて多摩キャンパス20,337名(7/24、8/19)、後楽園キャンパス10,151名(8/6、8/7)の合計30,488名の来場者を迎え、過去最多の来場者数となりました。また、各月に実施しているキャンパス見学会は、後期から多摩キャンパスにて「属性別」のイベントを実施し、10月8日(土)には外国人留学生対象のキャンパス見学会・相談会を行いました。11月19日(土)には女子受験生向けのイベントを実施する予定です。



続々と自治体との「就職支援に関する協定」を結ぶ <キャリアセンター>

中央大学の在籍者の約33%が首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)以外の出身者。中央大学ではUIターン支援に力を入れており、これまで群馬県、新潟県、香川県、秋田県、栃木県、石川県、広島県の7自治体/県と協定締結しています。協定を契機として、UIJターン内の企業とのマッチングを支援することによりUIJターン就職の促進を図ってまいります。広島県では就職支援に関する協定を締結した関東圏の大学は、本学が初めてのこと。秋田県では「秋田県と中央大学とのAターン促進に関する協定」として、Aターンという、秋田県出身者もそ

うでない方も、みんな秋田へ来てください!!との願いを込めたオールターン(ALL TURN)の“A”と秋田(AKITA)の“A”をかけた言葉で表現されています。中央大学では、全国18会場に入試会場を設け、首都圏以外からの入学者を積極的に受け入れています。また、在学生の学生生活についてもご父母のみなさまに安心いただけるよう、全国で開催している父母懇談会や大学の機関誌「草のみどり」等を通して発信しています。

就職内定者に 聞きました

1. 就職活動で一番大変だったことを教えてください。
2. 内定先を決めた一番の理由は何ですか？
3. 就職先で活かせる自分の強みが培われた、中央大学の取り組みは何ですか？
4. 新社会人になる自分に向けて期待すること、目標は何ですか？



理工学研究科 応用化学専攻
福士 亮平さん 内定先: 本田技研工業株式会社

1. 研究とのスケジュールの兼ね合いです。就職活動の解禁時期と研究室の忙しい時期が重なっていたことから、解禁前では就職活動の予定が立てられず、出ることのできなかった学内セミナーなどもありました。
2. 人の生活の役に立てる製品を生み出してみたいと思い、そのなかで様々なジャンルの製品に挑戦し、生み出してきたメーカーであることと、私の専門性だけではなく、考えや意志・ロジックを鋭い目で真剣に見てくれたことです。
3. 研究室における熱いディスカッションです。自分の考えを話しながら論理的に考えて、きちんと伝える経験は学びの場で培われました。真剣に何かを誰かと議論することは難しいと感じましたが、楽しく良い経験でした。
4. 今はまったく異なる領域に挑戦することです。まだ1つのジャンルのことを数年研究した程度であるため、もっと知らない世界を見たいです。知らない領域や異なる環境そのものが私の期待することです。



総合政策学部 国際政策文化学科
新澤 美沙さん 内定先: 航空会社

1. 情報解禁である3月から選考開始までの期間が非常に短く、情報収集や選考準備に追われたことです。各社の説明会に参加し、時間がないなかでエントリーシートを推敲することが、とくに負担でした。
2. 自己分析を通し、相手の心に寄り添って考え、仲間と協力しながら働きたいという想いに気づき、それに最も適していると考えていた業界、職種だったからです。
3. チームに貢献しようとする力を大学で所属したソングリーディング部"Garnet Girls"で培われたと思います。微力でも全員で力を寄せ合うことで、苦境を乗り越えていけることを学びました。
4. 視野を広く持ち、常に成長し続けることを目標としたいです。お客さまと接することができるこの職業は、自身の成長が直接仕事の質として反映されると考えています。常に満足することなく、貪欲に自らを高め続けていきたいです。